

平成29年度 東京都立江東特別支援学校 学校経営報告

校長 早川智博

今年度は、高等部単独校2年目となった。また、創立40周年を迎え11月には記念式典を挙行し、40年間学校が地域の方々に支えられ、生徒がたくましく育ったことに感謝する機会となった。生徒一人一人がお互いを思いあう伝統を大切に、前年度の地域での学習をさらに一步進め、学校で学んだことが地域で生かされ地域に貢献できるようにしてきた。

目指す学校像「生徒一人一人が人間性豊かに成長し、学んだことが地域で生きる力を育成する学校」に関連して、「学習したことが地域で生かされる」ことや「生活に役立つ4つの力の育成」については、地域貢献活動を実施している。平成28年度に始めた江東区役所の窓ふき清掃、公園の花の植え替え作業、高齢者施設でのボランティア活動をさらに進め、今年度から地域企業への観葉植物の貸出、毎月の地域向け作業製品販売会「SAZANKA マーケット」の開催など地域の皆様から「ありがとう」「助かった」と言われる経験ができ、生徒に「人の役に立ちたい」という気持ちも育っている。

これ以外にも地域や専門家と関係した取組みとして、地域の方や保護者が参加した福祉避難所開設準備訓練、プロや専門家を招いての学習として、落語教室、常磐津教室、パラリンピアンへの授業など、本物に触れ合い興味・関心を広げる機会となった。また、「主体的・対話的で深い学び」については、作業製品販売会「SAZANKA マーケット」の商品開発を進めるために行った、販売の専門家によるマーケティングの授業やIT企業の情報教育の専門家によるクリティカルシンキングの授業、弁護士が参加した主権者教育の授業から、生徒が発言する際に自分の好き嫌いでなくて理由を付けて話すことなどの学習の様子がテレビや新聞などにも紹介された。

さらには、東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画により、平成30年度より職能開発科が設置されることとなった。教室等の改修工事、体育館・特別教室の冷房設備設置工事、食堂・厨房の改修工事を実施した。普通科職業学習類型コースの実績のもと、障害の軽度から中度の生徒を対象とする新たな職業学科として、職能開発科が設置されることになり、都内全域を通学区域とし、入学にあたっては「適性検査」と「面接」による選考を実施し、出願倍率2、40%となり、企業就労率100%を目指す学科となる。

キャリア発達の支援を教育活動の柱に据え、東京都立特別支援学校知的障害教育外部専門員事業（知的障害特別支援学校教育支援員事業5年目にあたる。以下、外部専門員）と関連させ、授業改善や新たな教育活動を進め、個人や組織をテーマにした専門性の向上やシステムの構築を追及し全国公開研究会も3年目となった。また、「安全なる学校」として「東日本大震災」の教訓を踏まえ総合防災対策計画をより、総合防災訓練、福祉避難所開設訓練など実践的なものを毎年見直し、実効性の高い危機管理体制を整備し、地域との連携を深めてきた。また、「チーム江東」による学びの場の創出と保護者及び地域・社会の期待に応えられる学校を目指してきた。

学校経営計画の54の重点項目の98%は達成できた。企業就労率は前年度より8.4ポイントアップの40%を達成したが、定着率の目標90%は進路先変更の結果のため82%であった。就職後の企業・地域・家庭との支援の方法を探っていききたい。一方、前年度の課題であった、予算のセンター執行率については、前年度末の予算立案から取り組み、目標の16ポイントアップの55%を大きくアップした61.3%とした。昨年度、達成した「消費エネルギー平成22年度比マイナス15%」については、消費エネルギーの学習を進め「平成22年度比マイナス56%」を達成した。大きく削減できたのは高等部単独校となり、使用教室が少なくなり、工事のため食堂や体育館の仕様が少なくなったことも影響した。

学校評価でのアンケートの回収率は、前年度比8.2ポイントアップの83.6%となった。評価項目の良い評価は、前年度比の0.2ポイントアップの92.2%になった。評価委員会から指摘いただいた学校の活動を保護者に伝え方を工夫するとともに、生徒の悩み相談の機会をさらに多くしていき、これまで以上に一人一人の生徒に応じた支援・指導の充実を図っていききたい。

平成30年度は、職能開発科が開設され、都民の期待も大きい。江東特別支援学校は、普通科と職能開発科の2科があつて一つの学校となる。そのため2科のそれぞれの目標を明確にし、相互の理解と連携を充実させ、生徒一人一人の成長を目指していききたい。

II 今年度の重点目標への取組みと自己評価

【評価】◎：おおいに達成、○：ほぼ達成、△：一部達成、×：未達成・未実施

<教育活動の目標と方策>

- 学ぶ環境：職能開発科の設置準備、校舎改修等の工事、高等部単独校としての教育課程編成、及び創立40周年記念式の開催への具体的な取組みを進める。⇒◎
- わかる授業：「江東特支 指導の心得」等を基礎的環境整備として、外部専門員と教員との協働によるミニ支援会議の結果を、学校生活支援ファイル作成の合理的配慮に記載し、保護者と共通理解した上で指導の充実を図る。⇒○
- 創造する授業：授業では観点別評価に基づく授業評価を行う。また、授業では、見方や考え方を学び、自ら意見を言い、相談し、改善案を出し、社会とかかわる時間の設定を意図的・計画的につくり、アクティブ・ラーニングを実施していく。⇒○
- 「生活に役立つ4つ力」の育成：基礎的生活習慣を基盤に「生活に役立つ4つ力」を育てる。「あいさつ力」あいさつで自信をもち人と関わる。「一人通学の力」自立心を育てる。「そうじ力」仕事に大切な基本的スキルを身に付ける。「やくわりの力」社会参加・社会貢献を果たす。⇒◎
- 安全な学校：ヒヤリハットや困難なケースには、迅速な報告と関係者の支援会議を早急に行い、組織的な改善策を立て指導していく。地域と連携して防災訓練、防災意識を高めていく。生徒の悩み相談を定期的実施する。⇒○
- 地域に貢献する学校：学んだことが家庭生活や地域生活で生かされるよう、学んだことが地域の中で活用できたことを評価できる授業づくりを目指す。そのために地域関係機関との連携を重視し、地域での活動や貢献活動を通して、生徒が役に立っていることがわかる時間を計画する。教職員も教育活動が地域とのつながるよう地域貢献活動を進める。また、体育、音楽、美術等学習の成果を地域に発表する場を設定し、理解啓発を図る。⇒◎

<重点目標と数値目標>

★ 学習指導 専門性の向上と授業の充実

- 1 教育課程届に基づき、シラバス、年間指導計画を作成して、学習内容の充実を図る。<全教職員、集約：教務部>⇒◎
- 2 授業では観点別評価に基づく授業評価を行う。研究授業一人1回。授業自己チェックシート（2回）による授業力の向上。研究授業時とその後の授業で授業自己チェックシート作成し、OJT実施体制表担当者、管理職等との振り返り 12月中<研究推進部>⇒◎
- 3 わかる授業を実践するために目標や授業の流れの掲示、発達段階に応じた教材・教具の開発及び共有化を進める。また、想像する授業を実施するため、思考の時間、対話の時間等アクティブ・ラーニングを用いた授業。外部で研修した内容を教育実践の中で実践する。外部専門員との協働による教材・教具の開発、共有化及び公開。（新規教材開発一人1点以上、全国公開研究会で展示）<研究推進部>⇒◎
- 4 読書活動の充実 読書週間の設定10月30日～11月2日<研究推進部>⇒◎
- 5 ICT機器（タブレット端末）を活用した教材の研究 研修会1回<教務部>⇒◎
- 6 「江東 指導の心得10か条」など、基礎的環境整備を進める。落ち着ける学習環境の設定とわかりやすい授業のための環境設定をする。音への配慮や目からの刺激を少なくすることと授業の見通しがもてる学習環境の設定。（基礎的環境整備）<教務部>⇒○
- 7 教育課程・年間指導計画・週ごとの指導計画と個別指導計画の関連づけを明確にする。個別指導計画は、指導の手だてを具体的に示し目標の達成率を高める。個別指導計画作成ガイドラインの活用 <教務部>⇒○
- 8 オリンピック・パラリンピックに関する授業として、「障害者スポーツと交流」「日本の伝統文化」「世界友達プロジェクト」等を実施する。<各教科担当等>また、オリンピック・パラリンピック教育に関する事業として、「夢・未来プロジェクト」と「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」を実施する。<オリンピック・パラリンピック教育

担当⇒◎パラリンピアの授業、伝統文化（落語教室、常磐津教室）、大江戸高校とのフライングディスクの交流

- 9 「やくわりの力」を発展し地域貢献する力を育てる。高齢者施設でのボランティア活動、公園の花の植え替え、区役所清掃等＜清掃班、進路指導部＞⇒◎高齢者施設のボランティア活動、夢の島公園の花の苗の植替え、区役所の窓ふき清掃、毎月の地域向け作業製品販売会、近隣企業への観葉植物の貸出し。
- 10 体育、音楽、美術、部活動等学習の成果を地域に発表する場を設定し、理解啓発を図る。＜体育、音楽、美術、部活動等＞⇒体育祭、文化祭、広がれ絆！オープンフェスタ、絵画展覧会での参加と各種賞の受賞

★ 生活指導 安全・安心な教育環境と規範意識の充実

- 11 人権意識の涵養。体罰の根絶及びいじめ防止の対応の迅速性を図る。
「体罰根絶に向けた学校運営連絡協議会の活用。学校評価アンケート共通項目の設定。学校サポートチームの活用と広報活動＜生活指導部 学校いじめ対策委員会＞⇒○
- 12 臨床発達心理士、臨床心理士等（外部専門員）等との協働による命を大切にする指導・いじめを防止する指導・心のケア。スクール・ソーシャル・ワーカー等による生徒の悩み相談 月1回と状況に応じて随時＜コーディネーター 生活指導部＞⇒○
- 13 ルール、マナーを視覚的に示し、規範意識を育てる。「学校生活のしおり」「生徒の心得」「SNS江東ルール」等＜担任、生活指導部＞⇒○
- 14 生徒及び保護者に対して食育相談を実施し、健康増進を図る。食育相談に際しては必要に応じて学校医との連携を図る。食育相談 随時 10回＜栄養士＞ 生徒に安全な給食を提供する。食育につなげる。食育日より2回以上＜保健給食部＞⇒◎食育相談14回、食育日より4回
- 15 生徒の健康保持増進や感染症対策を進める。学校保健委員会4回 ＜学校保健委員会＞⇒◎4回
- 16 部活動の振興を図る。＜特別活動担当 生活指導部＞
新規：パソコン部を設置しビジネス文書実務検定を試行する。特別支援学校における地域との連携による部活動振興事業の継続 ＜全員＞⇒◎パソコン部設置・実施
- 17 人権を尊重した教育を推進する。
体罰の根絶及びいじめ問題の対応の全校的組織的な取り組み「本校いじめ防止対策基本方針」により、「いじめ防止検討委員会」及び「いじめ対策委員会」の設置。言葉遣い・挨拶・態度等。教職員の社会性の向上、預かった個人情報の適切な管理。 通年 人権研修会1回＜全教職員、生活指導部、教務部＞⇒○研修会1回
- 18 校舎内外の美化及び震災対策も含めた安全管理に努め、生徒が安全で快適な学校生活が送られるようにする。校内安全点検月1回＜生活指導部＞⇒◎月1回
- 19 アレルギー対応について、アレルギー対応訓練、エピペン使用方法研修を実施する。4月1回＜保健給食部・学校保健委員会＞⇒◎研修会1回
- 20 危機管理体制を整備し、実効性の高い防災対策を進める。大規模災害マニュアルとリンクしたBCP（業務継続計画）の改善 9月まで。震災対策ポケットメモの改訂更新（地震と火災に分ける）。震災対策ポケットメモを基にした実効性の高い避難訓練の実施。＜生活指導部＞⇒
- 21 「支援される学校から支援する学校」
福祉避難所開設訓練、総合防災訓練、AED使用研修、救命救急免許の取得、宿泊防災訓練（2年生）の実施により、地域への情報発信により地域の防災支援体制を広げていく。＜生活指導部＞⇒○保護者地域参加者25名
- 22 3・11を忘れない「江東防災の日」の設定 平成30年3月9日（金）避難訓練と講話＜生活指導部＞⇒◎避難訓練と講話実施
- 23 「SOSカード」や「ヘルプカード」「ヘルプマーク」を活用し周囲の人に支援を求めることや、自身の安全を身につける学習を進める。＜「ホームルーム」「生活単元学習」等＞⇒○

- 24 事故0を目指し、「事故0DAY」毎月17日(基準日)に設定 事故防止予知研修4月1回 ヒヤリハット報告と再発防止対策の徹底<生活指導部>⇒○事故防止予定研修1回、
- 25 迅速な報告や報告に基づく支援会議による早期問題解決。担任、担当者発信、学年共通理解による校内支援会議を迅速に行う。<担任、担当者>⇒○

★ 自立・社会参加を捉えたキャリア教育の充実

- 26 新作業班により作業内容の充実、製品の開発、販売活動を行う。2年生より類型別の作業班体制とする。<将来構想委員会作業班プロジェクト>⇒◎販売促進会議10回による新製品の開発
- 27 キャリア発達の支援や外部専門員事業を推進する。研修会2回<進路指導部>⇒2回。7月外部専門員研修会実施・9月ハンドブック研修会実施
- 28 企業就労率40%以上、1年後の定着率90%以上 「江東個別の進路計画」作成による指導の充実(現場実習後作成)進路相談日5回以上<進路指導部>⇒△企業就労率40.6%、定着率82%
- 29 キャリア発達の支援を充実し、社会自立の力を育成する。外部専門員と協働した生徒指導の充実。外部専門員と協働した作業学習の研究。作業学習における委託作業の継続。<作業班>⇒◎
- 30 関係機関と連携して新たな職場開拓を進める。希望進路の完全実現。新規職場開拓10件以上 <進路指導部>⇒◎新規開拓57社、32社で実施
- 31 「生活に役立つ4つの力」の育成「挨拶の力。一人通学の力。掃除の力。役割の力」スローガン「日本一 笑顔のあいさつ 江東校」校内あいさつ検定30名実施<全教職員>「生活に役立つ4つの力」各教室表示<教務部> 東京ビルメンテナンス協会による清掃講習受講<清掃担当>⇒◎
- 32 進路情報の発信 進路便り10回発行<進路指導部>⇒◎15回

★ 全校的な専門性の向上

- 33 専門性向上のため専門性自己チェックシートを年2回(5月、12月)活用し、専門性の向上を確認する。<全員・管理職>⇒○2回実施
- 34 教員の専門性向上のため支援会議や校内研修を充実する。重度・重複学級及び支援が必要なケース。特に自閉症の教育や教育課程の類型化の基礎としてアセスメントの知識や見立てより指導プログラムを立て説明する力を向上させる。授業は外部専門員との協働(ギャラリー参加含む)を通して一人1回以上実施 <研究推進部>⇒○
- 35 認定講習により特別支援教育免許状取得の向上を図る。免許状未所有者受講可能者の受講率100% <対象者、副校長>⇒△ 94%
- 36 「特別支援学校におけるスポーツ教育推進事業」(新規)、「職業教育充実事業」(継続)、「都立特別支援学校における社会貢献活動授業」(本実施)<指定研究推進委員会>⇒◎
- 37 全国公開研究会の実施 平成30年1月26日(金)実施予定テーマ「自立・社会参加に向けた作業学習の充実」参加者100名<指定研究推進委員会 研究推進部>⇒△参加者39名

★ つながりをおこなった特別支援教育の推進

- 38 保護者と学校の相互理解を深めるために授業参観日を設定する。授業参観6回 学校公開2回、6月、11月<教務部 特別支援部>⇒◎6回
- 39 地域行事への参加 「つながれ 絆! オープンフェスタ」深川高校との交流(表現活動部)、大江戸高校との交流(ダンス部)、障害者スポーツ(「体育」等)⇒◎
- 40 特別支援コーディネーターを配置し関係機関との連携を図る。また、特別支援コーディネーターや進路指導部、教育相談部等による教育相談機能を充実する。校内支援会議30回以上<コーディネーター>⇒◎83回

★ 総合力の発揮と効率的な学校運営の推進

- もてなしの心、笑顔での挨拶は生徒への手本、花と絵のある学校、保護者・地域の方の意見の傾聴、課題の整理と迅速な対応、貢献活動（全教職員）
- 4 2 明るくきれいな学校をめざし玄関前、廊下など整理整頓し花や絵等の生徒の作品を飾り古い校舎でもきれいに使う。<企画室、主幹、作業班、美術科等>⇒◎
- 4 3 教育活動が地域へつながるよう教員による障害のある人や学校周辺地域への貢献活動、部活動等一人1回以上<全教員、集計：副校長>⇒◎
- 4 4 業務の適切な進行管理 業務の目標、担当、進捗状況、成果を業務マネジメントプログラムを活用し進行管理する。年3回（7月、10月、1月）<主幹、分掌主任等 集計：副校長>⇒◎4回
- 4 5 学校開放事業運営委員会が中心になって、学校施設の有効活用を図る。工事があるため施設開放100回<企画室・（教務部）>⇒◎139回
- 4 6 節電対策に努め、「施設の使用に関するきまり」に基づいた運営の徹底。改修工事等があるため平成22年度比マイナス13% <全校、記録：経営企画室>⇒◎マイナス52%
- 4 7 保護者・都民への窓口として、経営企画室を中心に事務処理能力や対応力、説明する力を高めサービスの向上を図る。経営企画室においては改善策の提案（1人1提案）<経営企画室>⇒◎
- 4 8 学校経営支援センター契約等によるコスト削減意識を徹底し、予算の有効活用と適正執行を図る。センター契約の推進。前年度比15ポイントアップ<予算担当者・経営企画室>⇒◎ 16ポイントアップの61%
- 4 9 技能系職員を中心に技能向上を図り、修繕修理等で校舎等の安全確認・整備を進め、学校の対応力を向上させる。随時<技能主事>⇒◎
- 5 0 ICT機器活用による授業の改善と会議の持ち方・実務処理の合理化を進める。月末の金曜日にノー会議デイの設定 月1回設定。日頃から校内掲示板を積極的に活用し、行事・分掌活動等のPDCAサイクルでの効率的な活用等「情報」以外の授業他でICT機器の活用を推進する。ICT活用研修1回<各行事等担当者、教務部>⇒
- 5 1 「個人情報安全管理基準」に基づき情報管理の適正管理に努め、個人情報の紛失やセキュリティ事故を起こさない管理体制を徹底する。安全性と迅速性を追求するためにTAIMSのメールの送受信に慣れ、情報の共有につなげる。情報セキュリティ研修1回<教務部>⇒◎1回
- 5 2 教育活動を積極的にホームページに掲載する。見やすいホームページの工夫。定期更新月2回以上し、学校の広報活動を行う。<行事等担当者、教務部>⇒◎ 月2回以上 全180回
- 5 3 将来構想委員会。職能開発科設置の準備、校舎改築工事の対応と教室移動、創立40周年記念式典、月2回<将来構想委員会>⇒◎ 23回
- 5 4 校舎改修工事等に伴う教室移動、物品の整理整頓、廃棄、学期1回<全分掌、全学部、集計：生活指導部>⇒◎ 物品移動10回
- 5 5 服務事故0を目指し、教員研修を月1回実施する。7月と12月に全校悉皆研修を実施する。<管理職>⇒◎ 2回